

第10講 ミケーネ国家のモデル

宮殿の分配機能の過大評価

ミケーネやティリンスの王城の堅固さと規模

堅穴墓 A から出土した大量の黄金製品

ホメロスに比べたピュロス王国の経済規模（たとえば女奴隷の数）の大きさ

粘土板資料の過大評価

多方面に及ぶ言及

例：小麦、オリーブ、無花果、葡萄の生産と加工。羊（羊毛用）の飼育と加工

青銅の分配

貢租：土器、穀物、豆、若い牡羊、宝石、象牙、金、亜麻

ピュロス王国内の主要な経済領域をカバーしていると錯覚

宮殿が関与しない経済領域の存在

石器：農機具として生産（P. N. Kardulias, 1999）

原材料の 68.8%は黒曜石。これはメロス島からもたらされたもの。加工片はギリシ各地に偏在。

宮殿や地域を中心地からは殆ど出土せず、周辺地域から大量に出土。

線文字B文書にも言及されず。

海外からの石材の輸入、国内での原材料の供給、加工、生産品の管理、消費者への交換について宮殿は全く関与していないし関心を寄せていない。

宮殿が生産と分配統制に関心を寄せたのはエリート達の威信を高める物資に限られていた。

織物：宮殿に生産工房が付属。多くの職人を抱える。家畜群を管理。

金属：特に青銅。海外からインゴットの形で輸入。宮殿に先ずはもたらされ、次いで各地の鍛冶工に分配加工。完成品は初期によって記録され、倉庫に備蓄。

香油、ある種の土器。宝石。象牙。

宮殿が直接関与する経済領域と間接関与する領域の存在

直接関与する領域：小麦、オリーブ、無花果、葡萄の生産と加工。羊（羊毛用）の飼育と加工。

耕作用の牛が宮殿からダモスの土地に貸与される。この土地は宮殿の管理下にある。

宮殿が耕牛を提供しダモスが労働力を提供する分益耕作。

直接生産は宮殿付属工房に供給される原材料と、工房で働く労働者に供給される食料。

貢租によって宮殿に供給される物資：間接関与。

貢租徴収の責は地方エリートが負う。

土器、穀物、豆、若い牡羊、宝石、象牙、金、亜麻。

Xenwia（賓客関係）による物資の交換。

宮殿間。宮殿外。

織物。香油。オリエントの印章。エジプトのカルトゥーシュ。

o-no (ooneomai : 購入) 文書：明礬や亜麻織物を購入。葡萄酒や小麦、青銅で支払い。

国家モデルの修正

従来モデル：中近東モデル

アジア型の専制的な君主権力

官僚行政と官僚機構

宮殿による中央統制型の経済

土器様式の均一性→宮殿による統制

巨大な倉庫群の存在→分配機能の集約

最近のモデル

王の名前すら分からない

行政文書に記載されることなし

中近東の都市国家に比べて規模が小さすぎる

ピュロス王国のセンター：最大 21ha

ウルク：100ha（初期王朝期初期）～400ha（初期王朝期末期）

アッカド帝国：5万平方キロ

宮殿経済の小ささ：既にシュメール学者によって指摘されている（前川）

王領地の狭さ、家畜群の規模の小ささ

宮殿経済は必ずしも絶対的ではない

生産規模の狭小性

貢租への依存度の大きさ

宮殿経済外の経済領域の存在

官僚制と言えるのか

役人の官職名が少ない：e-qe-ta（伯爵）、I-je-re-ja（女神官）、ku-ra-wi-po-ro（鍵持ち）、qa-si-re-u（地方の首長）、ke-ro-si-ja（長老会）、mo-ro-qa（持分地保有者）、ko-re-te（地区長）、po-ro-ko-re-te（助役）、du-ma-te（監督官）、da-o-ko-ro（村長）、ki-ti-ta（開拓者）、me-ta-ki-ti-ta（新植民者）、a-ke-ro（使者）、ka-ru-ke（布告者）

文書行政が行われているという事がイコール官僚行政を意味しているとは限らない
文書を系時的に維持管理するという文書行政の基本が無い

文書に年表記の欠如

非宮殿セクターの存在と大きさ

陶器の製造への言及がタブレットに無い

do-so - mo（貢租）を通じて領域内の集落から生産物を調達
交換による調達

宗教儀礼の重要性

宮殿における宗教儀礼

数千個にのぼるキュリクスと呼ばれる盃の存在

メガロンのある部屋は宗教儀礼の場

三分の二はパートタイムで宮殿に仕え土地を支給

三分の一はフルタイムで宮殿に仕え現物を支給

中世国家とよく似た所領分散型